

一般質問

佐藤 久哉 議員

- 津別21世紀の森周辺利活用について
- 定員管理計画について



議員

「双子のさくらガーデン」を
作りませんか

町長

慎重な議論が必要

佐藤議員

年間に相生の道の駅には12万人、津別峠には9万8千人の観光客が訪れます。津別に向かう人を単純に半分として10万9千人の観光客が津別を素通りしています。津別を素通りする観光客を津別に立ち寄りさせるためには、ある程度長い期間営業できる魅力ある観光施設が必要だと思えます。自然運動公園の一角にあるパークゴルフ場を改修し、「双子のさくらガーデン」を建設してはどうですか。北海道には、上川地方にガーデン街道と称する8つのガーデンがあります。オホーツクには本格的なガーデンはありませんが、営業期間も平均約6カ月あります。集客や採算面でも先進の成功事例があり有望と考えられます。町長はどう考えますか。

町長

民間で新たに起業するとな

れば、町としても支援するとは可能と考えますが、町が初期投資のすべてを担い、経営するとなれば慎重な議論が必要ではないかと考えています。ただ、

双子の桜のそばのパークゴルフ場の整備につ



いては、町民の皆さんが親しむためのガーデンづくりという考えもあり、そこに町外の方に立ち寄っていただくのも大切なことかと思えます。あそこには痛んだ双子の桜があります。手術はしましたが、瀕死の状態にあるというのも現実であり、であれば、双子の桜の次世代につなげるストーリー性のある整備というのでもいいのではないかなと考えているところです。

議員

定員管理計画に
ゆとりをもっては

町長

もう少し検討したい

佐藤議員

定員管理計画の見直しについては、平成26年の12月定例会での私の質問に対し、町長は遅れ気味になっていると答えています。その後、委員会などへの見直しの報告もありませんが、現在どういう状況なのか。

町長

職員定員管理計画については、前期計画の最終年である平成26年度中の見直しを目指し人事ヒアリングや政策調整会議において検討を行ってききましたが、現段階ではお示しできる状況には至っていません。したがって、平成36年度に87人とする現行の後期計画が、そのまま推進されている状況です。

佐藤議員

見直しが遅れている理由は私なりに理解していますが、

87人という管理計画の数字に縛られ、必要な人員の確保ができなくて、住民への必要なサービスができなくなることを心配しています。計画にゆとりを持って考えることはできませんか。

町長

現計画を目標としていくかどうか、もう少し検討が必要と考えています。

佐藤議員

定員管理計画が見直され、将来的な事務総量が把握されることによって、必要な事務スペースや施設設備が決まってきていきます。これを抜きにして庁舎建設計画は成り立たないと思うが、町長はどう考えますか。

町長

4月の庁議で副町長を委員長として課長職をもって構成する「津別町役場庁舎建設構想検討委員会」を設置し、その後、職員に対して「役場庁舎に求められる機能と具備すべき事項」についての提案を求めました。今月末に第1回の委員会を開催します。

一般質問

茂呂竹 裕子 議員

- 国民健康保険について
- がん対策について



議員

国保「支援金」で

税の軽減はできないか

町長

支援金は軽減の上乗せや

拡大に使われている

茂呂竹議員

政府は国民健康保険の低所得者の多い保険者対策として、平成27年度から約1千7百億円の財政措置を30年まで行うとしています。意図は被保険者の保険料の負担軽減、伸びの抑制に一人当たり5千円の改善効果と一般会計からの繰り入れを解消するためだと言っています。この支援金を活用し、軽減の上乗せや拡大に使うべきではないか。

町長

津別町の国保は、軽減世帯（7割・5割・2割軽減）が約半分を占め、負担能力の低い所得者層の加入割合が高く、国保運営が厳しいことから、保険税軽減対象者数に応じた公費負担により、支援金（保険基盤安定制度）として、毎年一定の割合で交付されています。それを一般会計から国保会計に繰り入れています。平成27年度からの財政措置

により、7割軽減、5割軽減の対象が拡大され、2割軽減分も新たに支援対象となりました。

茂呂竹議員

国保は平成30年度都道府県に移行するが、どんなことが予想されるか。

町長

市町村国保は規模や加入者、医療機関の偏在など構造的な問題を抱えており、都道府県を保険者とする規模拡大による財政基盤の安定化を図るものです。都道府県が責任主体となり、財政運営や効率的な事業確保で、安定的な事業運営が期待されます。一方で、各自治体の運営の効率性や賦課・徴収機能の低下、福祉や保健医療との連携に影響が出てくるのでは、と心配されており、国の協議会や道のワーキンググループで議論が進められています。

議員

中高生にピロリ菌の検査をできないか

町長

関係者の理解や、副作用に課題がある

茂呂竹議員

胃がんの予防にピロリ菌検査を行う自治体が出てきています。中学卒業前後に検査をし、陽性者の除菌を行えば、胃疾患の大半を撲滅できるとの論文もあり、道内では9市町村が実施しています。津別町も調査・研究をし、実施してはどうか。

町長

ピロリ菌感染が胃炎や胃潰瘍、胃がんの原因となることは明らかになっています。道内では9自治体が地元医師会や大学の働きかけで実施しています。学校や保護者の理解、副作用などの課題もあり現段階では成人期の各種がん検診による早期受診で、と考えて



います。

茂呂竹議員

マンモグラフィーでの乳がん検診では、高濃度乳腺の場合「合識別ができないのに「異常なし」の通知をしている自治体があるとテレビ報道がありました。早期発見のためのがん検診が、遅れの原因になる心配があり、はつきりしないなら不明、要再検などと通知する方がよいと思います。どのように通知しているか伺います。

町長

当町では、がんの診断がなくなっても所見が出た方には保健師が面談をし、説明しています。マンモグラフィーで判定ができない場合は、「再検査」「マンモグラフィー無効」と通知し、集団検診では保健師が対応することになっています。

一般質問

山内 彬 議員

○ ふるさとPRについて

篠原 眞稚子 議員

○ 介護保険制度について



議員

町長

ふるさとPRを進めるべきではないか
津別町にとってよい方法を
検討していきたい

山内議員

ふるさとPR大使及び会員制度の創設を検討してはどうか。

町長

大使を任命してPRしたいと思いますが、適任者がなかなか見つからない実情があり、津別に合った形のものでできれば検討したい。

山内議員

町民が利用できる統一したPR名刺を作ってはどうか。また、津別町の動画DVDを作り広めてはどうか。

町長

地域おこし協力隊で移住してきた専門職の方に協力してもらい、進めていきたい。

山内議員

ふるさと納税の返礼品に津別町に来ていただく事業を取り組んではどうか。

町長

町内の宿泊施設の協力のもと、「宿泊券」を返礼品として加えています。

山内議員

相生道の駅の「津別町の顔」としての役割推進を図るべきではないか。

町長

相生地域は将来とも存続する拠点であり、道の駅が通過ではなく、目的となる施設にならないかと考えています。

山内議員

平成28年度の相生振興公社の事業計画の中に「クマヤキ」のことは載っていないかったが、なぜなのか。

町長

私もあつて当然かなと思います。クマヤキだけではなく、将来を含めて話し合いができる場をもっていきたい。



議員

町長

介護認定で自立と判定された
場合のサービスはどうなるのか
保険外のサービスを行っている
町外の事業所を紹介する

篠原議員

高齢者の方が地域の中で自立した生活が続けられるよう「生活援助員派遣事業」があります。介護認定が自立と判定された方が受けるサービスは、平成27年度で終了ということですが、その実績と今後について伺いたい。

町長

事業の利用者は、平成22年度より1人の実績で、今後は、多様なサービスの可能性があり、協議を行っていく予定です。この間サービスを希望される場合は、保険外サービスをを行っている町外の事業所を紹介することになります。

篠原議員

総合事業に移ることによ
り、介護サービスは、現状の
まま移行されるのかどうか。

町長

今年4月から実施している

篠原議員

介護予防・生活支援サービス事業は、これまでの介護保険サービスと同じ内容、単価で実施しており、多様なサービスを提供できる状態にはまだありません。

篠原議員

介護者の慰労サービスについて、現状考えていることがあれば伺いたい。

保健福祉課主幹

短期入所サービスや家庭介護教室のあり方など、介護者の方が健やかに過ごせる時間をどうつくるか考えています。

篠原議員

総合事業への移行をどう周知していくのか。

町長

工夫をしながら説明の機会を作りたい。